





2年生「うごくうごくわたしのおもちゃ」

昨日10日(火)の1時間目から、体育館から歓声が聞こえてきました。体育館へ行ってみると、2年生が自分たちで作ったおもちゃを紹介し合いながら楽しく遊んでいました。2年生は、生活科の学習で「うごくうごくわたしのおもちゃ」の学習をしています。この単元では、身近にあるものを使って遊びに使うものを工夫して作ったり、遊び方を考えたりする中で遊びを創り出すことのおもしろさに気づき、夢中になって楽しく活動することをねらいとしています。2年生は、風力や磁石の力、ゴム力、空気力などを使った動くおもちゃを考え、作りました。そこで、体育館にグループごとのブースをつくって、そこに来る友達におもちゃを使った遊び方の説明やルールを教え合っていました。世界に1つしかない面白いおもちゃからは、「『 帯西レッド』の心が伸びました。がんばっておもちゃを作ったし、遊び方の説明ができて自分が成長しました。まだまだみんなと力を合わせると、可能性が広がると思いました。」「『 帯西グリーン』の心を感じました。今まで知らなかった人とも仲良くなれて、うれしかったです。」「こんな面白いこと生まれて初めてです!」という感想が聞かれました。私も参加させてもらって遊びましたが、おもちゃにはたくさんの工夫が溢れ、子供たちの発想力には驚かされました。



帯西校歌の秘密 その②

校歌の2番の歌詞は、託麻野での昔の歴史のことが歌ってあります。

「天授の昔」というのは、天授4年(1378年)9月29日の朝焼けの霧のまだ晴れやらぬ時でした。南北朝時代で、南朝方(天皇派)と北朝方(武士派)がこの託麻原でも戦ったのです。南朝と北朝との対立は、北朝方が優勢で、北朝方の足利尊氏は征夷大將軍となり、京都に室町幕府を開いていました。この戦いで南朝方の総大将は、菊池武朝でまだ16歳の若武者でした。このとき菊池家の家紋である「並び鷹の羽」の旗を押し立てて必死で戦いました。菊池武朝も負傷するほどの激しい戦いでしたが、菊池勢が勝利をおさめました。しかし、この託麻原の戦いが南朝最後の勝利となり、その後、南朝が北朝に吸収され、室町將軍家による全国統一が完成しました。しかし、菊池家の全国的な北朝有利の状況にあっても南朝の雄として最後まで戦い抜き、その愚直なまでに信義をつらぬく姿勢は、後の世にまで語り継がれることになりました。

この「並び鷹の羽」ですが、金峰山の山頂に鎮座する金峰山神社は、南北朝時代に菊池武重が再興した菊池家ゆかりの神社ですので、「並び鷹の羽」を見ることが出来ます。そういう歴史を感じながらこの「並び鷹の羽」を見て、校歌の意味を考えると、感慨深いものがあると思います。

